

文教環境委員会



文教環境委員会では、本年度の所管事務調査事項として、「教育ICTの活用について」、「スポーツ振興について」、「廃棄物処理施設の現状と課題について」の3項目を選定し、調査研究を行いました。その中から、「教育ICTの活用」について調査過程を詳しくお伝えします。

教育ICTの活用について

【選定した理由】

小学校では本年度から、中学校では来年度から、新学習指導要領が全面実施されます。新学習指導要領では、情報活用能力がより一層重要なものとして位置づけられており、教育ICTの必要性もさらに高まります。また、教育ICTを活用することで、授業内容の充実や、教職員の学習指導の質の向上なども期待されることから、所管事務調査事項に選定しました。

【本市の現状】

本市では、令和元年度末時点で、市内全ての小中学校の普通教室と特別教室に、大型提示装置、スクリーン、書画カメラを配備しました。また、本年度中には、市内全ての小中学校で児童生徒1人1台端末の配備を実現する予定です。新型コロナウイルス感染症の影響による4月、5月の臨時休業中には、児童生徒の学習支援のため、既存の動画サイトを活用し、それに関するワークシートを各校において作成したり、関連する教科書のページを指定したりするなど、従来の紙媒体の学習プリントに加え、インターネット環境を利用したオンライン教材の活用を行いました。しかし、こうした家庭でのオンライン学習の利用を通じ、各家庭におけるWi-Fi環境の整備、通信費の負担などの課題が明らかになりました。



大型提示装置を使用した授業

【視察の実施】

令和2年7月に白子中学校、旭が丘小学校への視察を実施しました。白子中学校では、さまざまな教科で大型提示装置、パソコンなどを利用した授業が行われていました。視察時点では、生徒全員にはまだ端末は行きわたっておらず、生徒たちは限られた台数の端末を日替わりで使用しているとのことでした。



白子中学校での現地視察

旭が丘小学校では、5年生の国語の授業において児童全員に端末が配備され、児童が端末に入力すると、その内容が即時にスクリーンに反映し、教職員、児童全員で入力した内容を共有しながら授業を行っていました。また、6年生の学年集会でもICT機器を活用し、各クラスにパソコンを1台設置し、パソコンに内蔵されたカメラを通じて各クラスによる発表をほかのクラスに中継することで、体育館などに集まることなく学年集会を開催していました。



旭が丘小学校での現地視察